

亡き王女のための

◆NHKの大河ドラマ「平清盛」が終了した。

賛否両論あったが、私が何より注目していたのは、劇伴音楽に吉松隆が起用されたことだった。大河ドラマの劇伴音楽と言えば、代々、楽壇の重鎮と呼ばれる作曲家が担当してきた。それに対して、吉松はかなり異色の出だ。慶應義塾大学工学部中退後、作曲活動が続けるが、その作風は、現代音楽界の本流である前衛主義(いわゆるワケわからん音楽ですね)を否定し、調性(はつきりしたメロディーを持つこと)と叙情性を重要視したものだ。そのため、楽壇からは距離を置かれたものの、作品を聴いた人々の口コミから人気が高まっていき、イギリスの音楽レーベルが彼の新作の権利を買うほど、海外での評価が先行していた。今回の起用は、やっと日本の評価が追いついたようで、非常に喜ばしかった。

「平清盛」をご覧になった方はお分かりのように、彼の音楽の特徴は、大変メロディアスである一方で、金管楽器や打楽器を多用した劇的さ



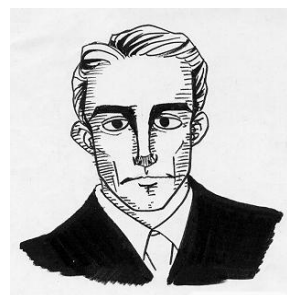
にある。それが、平安時代の物語ながら、非常に現代的な作品演出とシンクロしていたように感じた(吉松はロックに造詣が深く、往年のグループEL&Pの「タルカス」というアルバムをオーケストラ用に編曲したほどである。それは、今作でもたびたび流れていた)。もし、吉松に興味を持たれたら、ピアノ協奏曲を聴いていただきたい。坂本龍一やビル・エヴァンスのピアノ曲が持つ静謐さ(静かで落ち着いていること。また、そのさま)、と言えば雰囲気は伝わるだろうか。

◆もう一人、最近脚光を浴びている日本人作曲家がいる。佐村河内守(さむらゐうちまもる)という。「すごい交響曲を書いた日本人がいる」という音楽評で私は彼を知った。そして、彼の「交響曲第一番」を聴く。

大変重々しく80分を超える長大な曲である。ところが、「全身全霊を込めて書かれた音楽とはこのようなのを言うのだろうか」ということが、素人の耳ですら感ぜられるのである。実は、彼は大変なハンデをもつ作曲家なのだそう。詳細は触れない。そのような予備知識を持って聴くことの方が不幸だと思えるほどの傑作だからだ。副題は「HIROSHIMA」だが、折しも東日本大震災の余震の中で録音されたこの音楽に、復興への祈りが重なる。



◆さて、私は、「ボレロ」で有名なモーリス・ラヴェルというフランスの作曲家が好きで、その中でも「亡き王女のためのパヴァーヌ」という6分ほどのピアノの小品(管弦楽版もある)をよく聴いている。最初の一音から、胸が締め付けられるような、美しさに満ちた曲で(晩年記憶障害を患ったラヴェルは、この曲を耳にして「美しい曲ですね。だれが作ったのですか。」と尋ねたという)、これまで演奏者の異なるたくさんの音源を聴いてきたのだが、最近、一番素晴らしいと思う演奏に出会った。辻井伸行の演奏である。辻井も大変なハンデを持つ音楽家だが、彼のラヴェルが持っている瑞々しさ(どこかの音楽評には「浄化」とあった)には、驚くべきものがある。才能のことを英語で gift という。無論、技術は練習の賜物であろう。が、楽譜という印字された記号に生命を吹き込む、その感性は、高みの存在によって授けられた、と思わずにはいられない。



◆今回、音楽の世界で、困難の末に花を咲かせた人の話が重なったので、書いてみた。自分を信じることは、容易なことではないことは知っている。しかし、それを実現した人がいることもまた事実なのだ。

(関)

親父というものは

小中高生にとって、「親父」というもの存在は面倒なものだろう。私も例外ではなくそうだった。ある「昭和の親父」を紹介しよう。今後の参考になれば嬉しい。

我が親父殿は明治生まれの祖父(私の)の薫陶を受け継いでいたのだろうか、子供に対しては寡黙だった。「勉強しろ!」「宿題はどうした?」「成績を上げろ!」といったセリフは全く無く、必要最小限のことしか言われなかった記憶がある。これほど無関心であれば、自分はその子ではないのかと思ったほどだ。「自分のやりたいようにしろ」という発言があったことも親父本人から言われたのではなく、母親からの話で分かったくらいだ。実は無関心ではないことが後になって分かるのだが。

さて、子供だから当然いたずらや悪さをしたのだが、我が家では母親から叱られた段階で止めないと惨劇に至る。母親から親父にSOSが発信されるともう大変だ。寡黙な親父だから子供に説教なんて面倒なことはまずしない。ドラマ「寺内貫太郎一家」のような光景(小林亜星が演じる父親の貫太郎と西條秀樹が演じる長男の取っ組み合いの喧嘩の場面。我が家はあそこまで凄まじくはなかったが)が展開され、柔道

二段・陸上自衛隊上りの親父殿の鉄拳制裁で
だいたい決着がつく。当時は素直に反省するの
ではなく、鉄拳を恐れておとなしくしているだ
けだったから、やはり子供は子供なのだ今更
ながらに思う。

そんな親父殿も年をとり、味覚が変化してき
たらしい。以前は目もくれなかった甘いものを
食べるようになった。ただ、幼少期に嫌になる
くらい食べさせられていたサツマイモとカボチ
ヤには相変わらず見向きもしないのがなかなか
笑える。血の滴るような肉を喰らってきた我が
家の絶対君主が普通の爺様と同じようなものを
食べるようになったわけだ。これにはショック
を受け、我が家での一時代が終わりを告げた印
象があった。

子供の前では寡黙を貫いた親父殿ではあつ
たが、母親と二人でいた時は子供の進路や学校
の様子を気にして、いろいろと聞いていたらし
い。「直接聞けばいいでしょ」と母親にめんどく
さそうに言われたらしいが、一度として私に聞
いてきたことはない。あの絶対君主が随分と子
供みただ。まあ、無関心ではなかったことが
分かって安心はしたのだが。

私の親父殿はもういい年になったが、まだま
だ現役で働いている。体は小さくなってしまっ
たが、子供の前ではドラマでの無愛想な父親像
そのもので相変わらず寡黙だ。まあ、この寡黙

さで昔はいろいろと誤解をしていたが、親父と
はこういう生き物で、子供の前では強がるもの
なのだろう。「親父」という生き物はこれがいい
のかもしれない。
(山崎)

待ってる！すぐ帰る！

●「なに？あいつ来るのか？すぐ帰る！待って
いるように言ってくれ。」カミさんに電話で伝え
ると、自転車をとばす。午後11時10分。明日
も仕事だろうけど、待ってる。すぐ帰る。おつ
と、赤信号だった……。それにしても、不思議
だ。何でこんなに喜んでいいるのだ。とばせ、と
ばせ。あいつとは、私の娘だ。



●昨年12月、娘が結婚し
た。新居は徒歩5分の所。
「恵まれてるよ。」と会っ
た人ごとに言われた。自分
でもそう思う。いつでも
会えるのだから。毎日会うことだって可能なの
だから。しかし、淋しい。何だか訳もなく淋し
い。情けないが、とにかく淋しい。娘から電話
がくれば、機嫌がよくなる。メールは消さない。
「ちよつと寄ったよ。」は大事件で、家にあるお
菓子、果物、ジュースとつめこんで持たせたい
えに、「もう帰るのか。」と言ってしまふ。何て
ことだ……。

●当たり前のことだが、自分も家族や兄弟、親
類、そして友人知人を大切に思っているし、そ
うしてきたつもりでいた。しかし、娘の結婚を
機に考えが変わった。100人ほどの披露宴だ
ったが、一人一人の存在が何とも有難く思われ
た。娘の幼なじみの人たち。来てくれたのか。
元氣だったか。高校・大学の友人達。有難う。
あなた方と共に娘の学生時代はあったのですね
娘が悩んだとき支えてくれたのがあなたたちで
したね。恩師の先生方。こんなに娘のことを世
話してくださったこと。存じませんでした。有
難うございます。職場の同僚、上司の皆さん。
お世話になります。今後ともよろしく願いま
します。婿どのの御家族、よく育てられました。
良き縁を有難うございます。私の親族、よく来
てくれた。ここまでこられたのもみんなのお陰
です。今後とも一族団結してやっていこう……。
一期一会というが、その意味が初めて分かった
気がした。娘と婿どののためにこの人達が、こ
うして集まって長い時間を過す。この顔ぶれ
がそろるのは最初でおそらくは最後。交わす言
葉を一言も忘れまいと努めている自分がいた。
思えば90歳になる母に、ずっと言われた言葉が
あった。世話になった人の恩を忘れるな。友人
を大事にしろ。家族を守れ。感謝の気持ちを忘
れるな。その意味がようやく分かってきた気が
する。

●娘にとっては、あまり良い親ではなかったが、
まずまず育ってくれた。何より、自分がこれ程
娘のこと、家族のことを大事に思っていたか、
自分は家族にどれ程支えられて生きてきたかを
分からせてくれた。有難う。

●その日からである。人がいとしい。人が恋し
い。長く会っていない人のことが気になる。私
の記憶につながるいろんな人のことを思い出す。
何の脈絡もなく。

●さて、生徒たち。生徒はまだその人生は始ま
ったばかり。普通のこととして、様々な困難も
越えるべき壁も待ち受けている。親子の関係も
しかり。反抗期もあり、横道にそれることもあ
るかもしれない。(それはそれで、仕方のないこ
とである。)ただ、ひと一人が成長するには、
大勢の人の協力が必要で、その人に関わる親や
大人や仲間たちが、それぞれの事情と制約のな
かで、力を貸していく構図は、原始も今も変わ
らない。そして私たちも、塾という枠の中では
あるが、力を貸す側である。

一人一人の生徒ときちんと
向き合い、彼らの成長を願
いたい。そもそもこうして
会えたことが奇跡であって、
その偶然に感謝し、触れ合
う時間を大切にしていきたい
と思う。(小林(健))

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料で送ります。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。